

国道137号・新たな御坂トンネル ルート案について知事コメント

令和2年3月25日

コメント要旨

- 本県の二大生活圏を結ぶ国道137号は、「甲府富士北麓連絡道路」として、新山梨環状道路や西関東連絡道路などの地域高規格道路に準じる高い規格での整備が必要な道路です。
- また、東富士五湖道路や来年度に供用が予定されている国道138号の須走道路、御殿場バイパスを經由し、新東名高速道路に繋がる重要な路線であり、山梨・静岡両県の連携強化による経済発展に、大きく寄与することが期待されています。
- これまで、この路線では、笛吹市側、また、富士河口湖町側においても、長年にわたり、バイパスなどによる整備が進められてきており、整備済み区間では、地域高規格道路が目標とする概ね時速60km以上の走行が可能となる道路規格が確保されています。
- しかし、トンネルの前後には、ヘアピンカーブなどの線形不良区間が残っていて、速度低下を招くなど、円滑な交通を阻害しており、さらに、冬期におけるスリップ事故やスタック車両による通行止めなども頻発している状況にあります。
- また、現在のトンネルは竣工から50年以上が経過し、老朽化の進行が著しいことや、トンネル前後の急カーブ区間を含め、大型化が進む物流トラックなどの通行に支障を来しています。

- これら多くの課題解決に向け、これまでに新たなトンネルの整備について検討を重ねてきましたが、この度、検討結果がまとまり、ルート案をお示しできる運びとなりましたので、ご報告いたします。

- お示しするルート案は、
 - 整備済み区間である富士河口湖町側の山宮トンネルから笛吹市側のカムイ御坂スキー場入口付近をほぼ直線で結ぶ計画とする。
 - ルート案の計画延長 約5.5kmのうち、トンネル延長は約4.6km
 - トンネル内の縦断勾配は1%程度
 - これにより、課題となる急カーブや急勾配区間が解消され、時速60km以上の走行が可能となる道路規格が確保される。
 - 当該区間の通過にかかる所要時間が、約10分のところ、半分の約5分となる。

- 新たなトンネルの整備により、これまでの凍結や積雪による不安が軽減されるなど、安全で走りやすく、信頼性の高い道路になるとともに、グローバル化する物流への対応や、富士山噴火などの大規模災害時にも避難路・救援路として、強靱な道路となることが期待されます。

- 今後、この道路計画を更に具体化していくためには、ルートが通過する地域の方々にとっても、暮らしに役立つ便利な道路となるよう、ご意見を伺いながら、丁寧に進めて参ります。